

## 1 調査の目的

少子・高齢化や社会経済情勢の変化に伴い、家庭・家族の形態も変容し多様化していくなかで、奈良県民のくらしの実態を多様な家族類型の視点から明らかにし、県の施策の企画立案の基礎資料として活用することを目的に統計調査を実施した。

## 2 調査項目の大系

1. 世帯の状況について  
(各世帯員の性別・年齢・就業就学状況等、世帯の住居、奈良県に住むようになった時期・理由等、配偶者の就業の状況)
2. 生活行動について  
(家事・子育て・介護看護の状況、余暇・自由な時間の過ごし方の状況、家族一緒に過ごす機会の状況、買い物行動の状況)
3. 別居している親戚とのつながりについて
4. 地域社会とのつながりについて  
(日頃の近所づきあいの状況、地域団体等への加入の状況、地域活動・地域の催し物への参加の状況)
5. 家計について  
(支出・収入・貯蓄・借入の状況、この1年間の家計に対する実感)

## 3 調査設計

1. 調査地域：奈良県全域
2. 調査対象：一般世帯
3. 調査期日：平成21年10月1日
4. 抽出方法：層化2段抽出法による無作為抽出  
平成17年国勢調査における奈良県内の調査区(10,455調査区(約50世帯))をもとに、県内全市町村から無作為に439調査区を抽出(第一次抽出)し、次に、抽出した調査区の中から無作為に約10千世帯を抽出(第二次抽出)し、調査対象世帯とした。
5. 調査方法：調査員が、それぞれ担当する「調査区」において一般世帯を訪問し、協力依頼の上調査票の配布を行った。また、調査期日の前後数日間の留置きの後、訪問回収する留置調査法により実施した。
6. 調査期間：①協力依頼と調査票の配布：平成21年9月11日～10月中旬  
②調査票の回収：平成21年10月3日～同月31日  
※一部、11月初旬に回収した。

## 4 回収結果

配布数	回収数	回収率
10,285	9,127	88.7%

<市町村別の回収結果>

市町村名	配布数	回収数	回収率	市町村名	配布数	回収数	回収率		
奈良市	2,675	2,364	88.4%	宇陀郡	曾爾村	77	68	88.3%	
大和高田市	466	402	86.3%		御杖村	62	61	98.4%	
大和郡山市	644	577	89.6%	高市郡	高取町	65	63	96.9%	
天理市	494	461	93.3%		明日香村	75	68	90.7%	
橿原市	857	745	86.9%	北葛城郡	上牧町	175	137	78.3%	
桜井市	376	341	90.7%		王寺町	169	154	91.1%	
五條市	248	215	86.7%		広陵町	177	149	84.2%	
御所市	222	191	86.0%		河合町	130	114	87.7%	
生駒市	719	619	86.1%	吉野郡	吉野町	78	72	92.3%	
香芝市	466	414	88.8%		大淀町	111	104	93.7%	
葛城市	209	193	92.3%		下市町	61	58	95.1%	
宇陀市	221	207	93.7%		黒滝村	64	58	90.6%	
山辺郡	山添村	69	66	95.7%		天川村	74	64	86.5%
生駒郡	平群町	113	108	95.6%		野迫川村	90	59	65.6%
	三郷町	164	148	90.2%		十津川村	70	62	88.6%
	斑鳩町	189	172	91.0%		下北山村	62	62	100.0%
	安堵町	67	63	94.0%		上北山村	62	61	98.4%
磯城郡	川西町	75	69	92.0%		川上村	75	68	90.7%
	三宅町	75	61	81.3%		東吉野村	75	73	97.3%
	田原本町	184	156	84.8%	合計		10,285	9,127	88.7%

## 5 報告書の見方

1. 本報告書において使用する世帯類型の定義は、次のとおりである。

世帯類型	定義
単独（1人ぐらし）世帯	世帯人員が一人の世帯をいう。
高齢者世帯	65歳以上の者一人のみの世帯をいう。
高齢者以外世帯	高齢者世帯以外の単独（1人ぐらし）世帯をいう。
核家族世帯	夫婦のみの世帯、夫婦と子の世帯又は1人親と子の世帯をいう。
夫婦のみの世帯	夫婦1組の世帯をいう。
高齢夫婦世帯	夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組の世帯をいう。
高齢以外の夫婦世帯	高齢夫婦世帯以外の夫婦のみの世帯をいう。
夫婦と子の世帯	夫婦1組とその未婚の子から成る世帯をいう。
1人親と子の世帯	1人親とその未婚の子から成る世帯をいう。
1人親と19歳以下の子の世帯	1人親とその未婚の19歳以下の子のみから成る世帯をいう。 (いわゆる「母子（父子）世帯」)
1人親と20歳以上の子の世帯	1人親とその未婚の20歳以上の子のみから成る世帯をいう。
子と親の世帯	世帯主（又は世帯主の配偶者）と世帯主の両親又は1人親（又は世帯主の配偶者の両親又は1人親）の世帯をいう。
3世代（以上）世帯	世帯主との続柄が、祖父母、世帯主の父母（又は世帯主の配偶者の父母）、世帯主（又は世帯主の配偶者）、子（又は子の配偶者）及び孫の直系世代のうち、三つ以上の世代で構成される世帯をいい、それ以外の世帯員がいるか否かは問わない。
その他の親族世帯	上記以外の世帯をいう。

また、ライフステージ別集計の対象となる世帯は、次のとおりである。

	対 象 世 帯
ライフステージ 1	夫婦のみの世帯のうち、世帯主の年齢が30歳以下である世帯
ライフステージ 2	夫婦と子 2 人の世帯のうち、長子が未就学児である世帯
ライフステージ 3	夫婦と子 2 人の世帯のうち、長子が小学生である世帯
ライフステージ 4	夫婦と子 2 人の世帯のうち、長子が中学生又は高校生である世帯
ライフステージ 5	夫婦と子 2 人の世帯のうち、長子が大学生である世帯
ライフステージ 6	夫婦のみの世帯のうち、世帯主の年齢が60～69歳である世帯
ライフステージ 7	夫婦のみの世帯のうち、世帯主の年齢が70歳以上である世帯

- 集計結果は、すべて小数点第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数(n=number of case)として算出している。
- 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢を短縮している場合がある。また、グラフにおいては比率の高い順に解答選択肢を並べ変えているものがある。
- 本文中において使用する括弧の意味は、次のとおりである。
  - 【 】 …… 類型化された各カテゴリーの名称を表している。(例:【核家族世帯】)
  - 「 」 …… 設問で設定した選択肢を表している。(例:「現在働いている」)
  - 『 』 …… 設問で設定した選択肢のうち、集計・分析の便宜上一部統合したものを表している。(例:『近所』⇒「同じ家屋及び同じ敷地」と「近所」の統合)
- グラフに次のような表示がある場合、複数回答を依頼した設問を表している。  
 MA% (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- 表中の数値は、上段が実数、下段が比率を表している。また、表の右肩には上段実数の単位を表している。

(例)

世帯主の余暇・自由な時間の取得の程度		上段：世帯数	
県全体	十分取れた	まあまあ取れた	
9,127	2,970	3,506	←実数
100.0%	32.5%	38.4%	←比率

- 表中、比率が最も高い選択肢には 、二番目に比率が高い選択肢には  の色付けを行っている。また、設問によっては最も比率が高い選択肢のみ色付けを行っていることがある。
- 平均値の算定方法は、次のとおりである。
  - ① 普段の買い物の際に利用する交通手段による片道所要時間(問14)  
無回答のもの及び極端に値の大きい(180分以上)ものを除いて算出している。
  - ② 世帯の家計(問20～25)  
無回答のものを除き、「〇〇円未満」の場合は0(ゼロ)と〇〇円の間中値、「△△～□□円未満」の場合は△△円と□□円の間中値、「××円以上」の場合は1つ前の選択肢と同じ中間値の金額分を加算して求めた中間値を元に算出している。  
ただし、費目別の1か月当たり支出額(問21)における「××円以上」については、自由回答のうち無回答のもの及び極端に値の大きい(80万円以上)ものを除いた平均値を当該選択肢の中間値としている。
- 本報告書は、調査結果としての事実を述べているが、本調査は標本調査であるため、本報告書を参考として考察するに当たっては、次項(6 調査の精度)で述べる標本誤差を考慮する必要がある。

## 6 調査の精度

本調査は標本調査であり、今回得られた結果から母集団の意見を推測することができる。この場合、標本誤差は次の式により近似値を求めることができる。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

信頼度 95%     $\varepsilon$  = 標本誤差    N = 母集団    n = 回答者数    P = 回答比率

例えば、回答者総数（9,127世帯）を100%とする設問で、ある選択肢に対する回答比率が50%であったとすると、母集団（奈良県503,068世帯）における回答比率は、48.6～51.4%の間であると推測される。信頼度95%というのは、同じ方法で100回調査すれば、95回は母集団の真の値から、上式で求められた誤差の範囲内に入ることである。

一般的には、Nはnより非常に大きい値と考えられるため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$  とみな

すことができる。調査結果の標本誤差の範囲は、以下の(1)～(3)の標本誤差早見表のとおり求められる。

※世帯数や人口の母集団（N）は、平成17年国勢調査結果を元に算出している。

## (1) 地域

基数 (n)		回答の比率 (P)							
		10%又は 90%前後	20%又は 80%前後	30%又は 70%前後	40%又は 60%前後	50% 前後			
総数		9,127	±0.9%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%		
地域	奈良市	2,364	±1.7%	±2.3%	±2.6%	±2.8%	±2.8%		
	大和高田市	402	±4.1%	±5.5%	±6.3%	±6.7%	±6.9%		
	大和郡山市	577	±3.4%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.7%		
	天理市	461	±3.8%	±5.1%	±5.9%	±6.3%	±6.4%		
	橿原市	745	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%		
	桜井市	341	±4.5%	±6.0%	±6.8%	±7.3%	±7.4%		
	五條市	215	±5.6%	±7.5%	±8.6%	±9.2%	±9.4%		
	御所市	191	±6.0%	±8.0%	±9.1%	±9.7%	±9.9%		
	生駒市	619	±3.3%	±4.4%	±5.1%	±5.4%	±5.5%		
	香芝市	414	±4.1%	±5.4%	±6.2%	±6.6%	±6.8%		
	葛城市	193	±5.9%	±7.9%	±9.1%	±9.7%	±9.9%		
	宇陀市	207	±5.7%	±7.6%	±8.8%	±9.4%	±9.5%		
	平群町	108	生駒郡	491	±3.7%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.2%
	三郷町	148							
	斑鳩町	172							
	安堵町	63							
	川西町	69	磯城郡	286	±4.9%	±6.5%	±7.4%	±8.0%	±8.1%
	三宅町	61							
	田原本町	156							
	山添村	66	山辺・ 宇陀郡	195	±5.7%	±7.7%	±8.8%	±9.4%	±9.6%
	曾爾村	68							
	御杖村	61							
	高取町	63	高市郡	131	±7.2%	±9.5%	±10.9%	±11.7%	± 11.9%
	明日香村	68							
	上牧町	137	北葛城郡	554	±3.5%	±4.7%	±5.4%	±5.7%	±5.8%
	王寺町	154							
	広陵町	149							
河合町	114								
吉野町	72	吉野郡	741	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%	
大淀町	104								
下市町	58								
黒滝村	58								
天川村	64								
野迫川村	59								
十津川村	62								
下北山村	62								
上北山村	61								
川上村	68								
東吉野村	73								

## (2) 性別、年代、世帯類型

回答の比率 (P)		10%又は 90%前後	20%又は 80%前後	30%又は 70%前後	40%又は 60%前後	50%前後	
							基数 (n)
性別	男性	13,766	±0.7%	±0.9%	±1.1%	±1.1%	±1.2%
	女性	14,620	±0.7%	±0.9%	±1.0%	±1.1%	±1.1%
年代	9歳以下	2,541	±1.6%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.7%
	10～19歳	2,779	±1.6%	±2.1%	±2.4%	±2.6%	±2.6%
	20～29歳	2,853	±1.5%	±2.1%	±2.4%	±2.5%	±2.6%
	30～39歳	3,706	±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
	40～49歳	3,346	±1.4%	±1.9%	±2.2%	±2.3%	±2.4%
	50～59歳	3,756	±1.3%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.2%
	60～64歳	2,379	±1.7%	±2.2%	±2.6%	±2.8%	±2.8%
65歳以上	6,955	±1.0%	±1.3%	±1.5%	±1.6%	±1.6%	
世帯 類型	単独 (1人暮らし) 世帯	998	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
	核家族世帯	6,288	±1.0%	±1.4%	±1.6%	±1.7%	±1.7%
	夫婦のみの世帯	2,284	±1.7%	±2.3%	±2.6%	±2.8%	±2.9%
	夫婦と子の世帯	3,594	±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
	1人親と子の世帯	410	±4.1%	±5.4%	±6.2%	±6.7%	±6.8%
	子と親の世帯	410	±4.0%	±5.4%	±6.2%	±6.6%	±6.7%
	3世代 (以上) 世帯	1,227	±2.3%	±3.1%	±3.6%	±3.8%	±3.9%
	その他の親族世帯	204	±5.8%	±7.7%	±8.8%	±9.4%	±9.6%

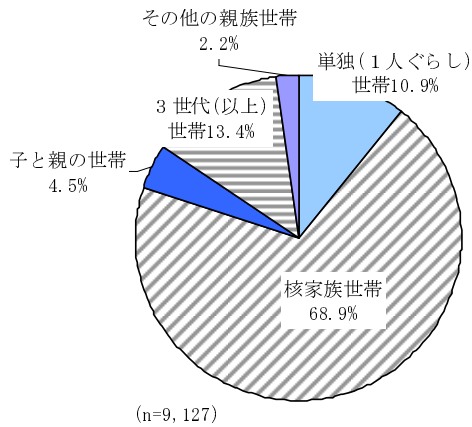
(3)  $(N-n) / (N-1) \div 1$  とみなした場合

回答の比率 (P)		10%又は 90%前後	20%又は 80%前後	30%又は 70%前後	40%又は 60%前後	50%前後
基数 (n)						
n = 28,500の場合		±0.5%	±0.7%	±0.8%	±0.8%	±0.8%
n = 20,000の場合		±0.6%	±0.8%	±0.9%	±1.0%	±1.0%
n = 15,000の場合		±0.7%	±0.9%	±1.0%	±1.1%	±1.1%
n = 10,000の場合		±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.4%	±1.4%
n = 7,000の場合		±1.0%	±1.3%	±1.5%	±1.6%	±1.7%
n = 6,000の場合		±1.1%	±1.4%	±1.6%	±1.8%	±1.8%
n = 5,000の場合		±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
n = 4,000の場合		±1.3%	±1.8%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
n = 3,000の場合		±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%
n = 2,500の場合		±1.7%	±2.2%	±2.5%	±2.7%	±2.8%
n = 2,000の場合		±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
n = 1,500の場合		±2.1%	±2.9%	±3.3%	±3.5%	±3.6%
n = 1,000の場合		±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
n = 750の場合		±3.0%	±4.0%	±4.6%	±5.0%	±5.1%
n = 500の場合		±3.7%	±5.0%	±5.7%	±6.1%	±6.2%
n = 250の場合		±5.3%	±7.0%	±8.0%	±8.6%	±8.8%
n = 100の場合		±8.3%	±11.1%	±12.7%	±13.6%	±13.9%
n = 50の場合		±11.8%	±15.7%	±18.0%	±19.2%	±19.6%
n = 25の場合		±16.6%	±22.2%	±25.4%	±27.2%	±27.7%

## 7 標本構成

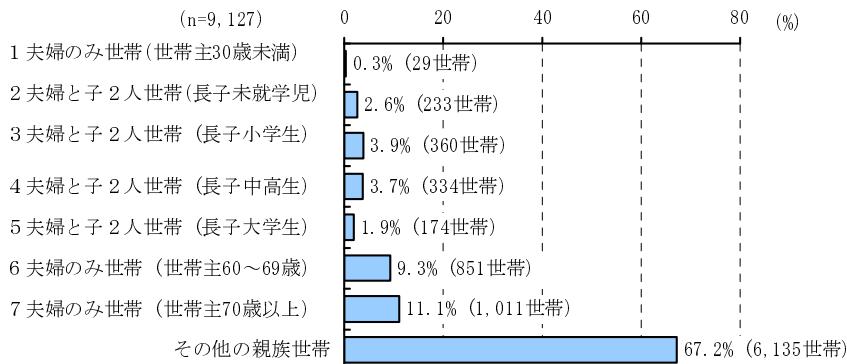
### (1) 世帯の属性

#### ① 世帯類型別

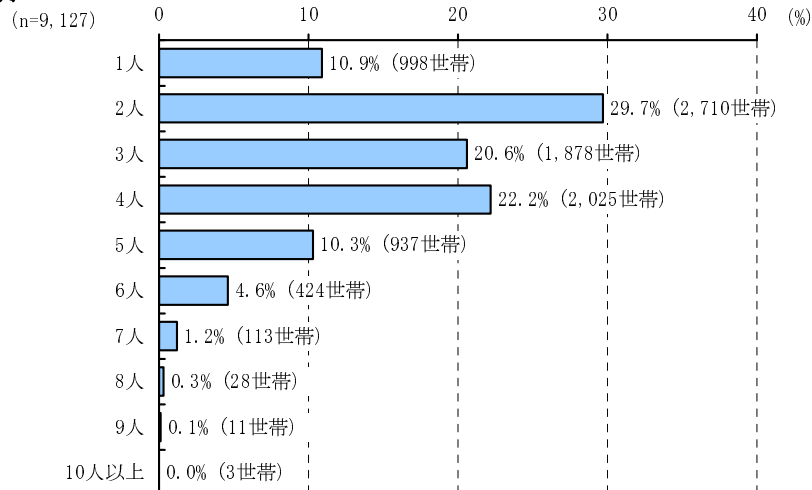


世帯類型	世帯数	構成比%
県全体	9,127	100.0
単独(1人ぐらし)世帯	998	10.9
高齢者世帯	655	7.2
高齢者以外世帯	343	3.8
核家族世帯	6,288	68.9
夫婦のみの世帯	2,284	25.0
高齢夫婦世帯	1,482	16.2
高齢以外の夫婦世帯	802	8.8
夫婦と子の世帯	3,594	39.4
1人親と子の世帯	410	4.5
男親と20歳以上の子の世帯	84	0.9
男親と19歳以下の子の世帯	15	0.2
女親と20歳以上の子の世帯	224	2.5
女親と19歳以下の子の世帯	87	1.0
子と親の世帯	410	4.5
子夫婦と親	240	2.6
独身子と親	170	1.9
3世代(以上)世帯	1,227	13.4
世帯主(配偶者)と子と親の世帯	714	7.8
世帯主(配偶者)と子と孫の世帯	407	4.5
他の3世代世帯、4世代以上世帯	106	1.2
その他の親族世帯	204	2.2

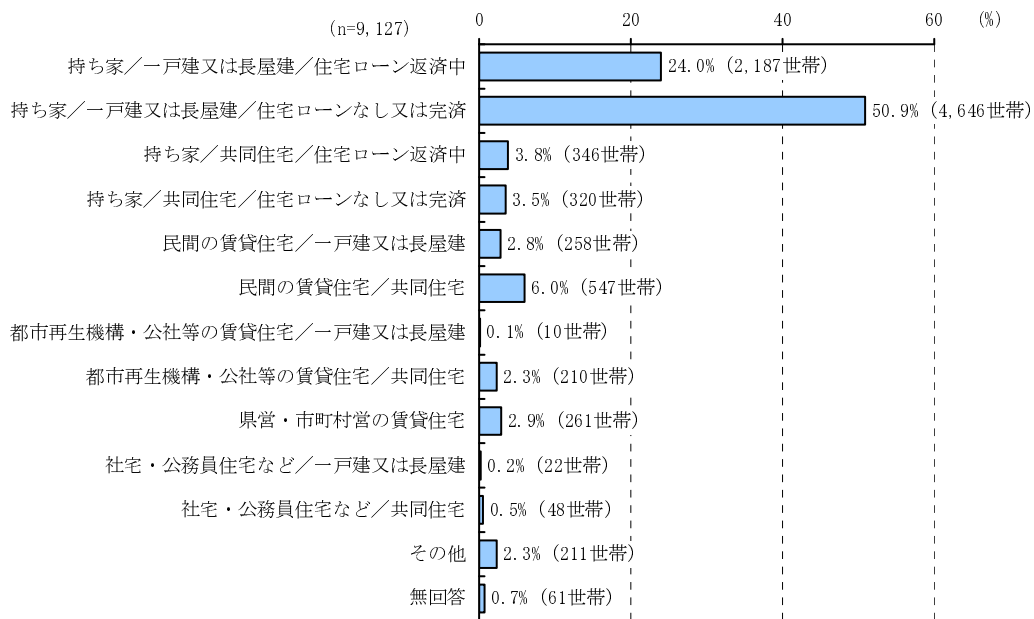
#### ② ライフステージ別



#### ③ 世帯構成人数別

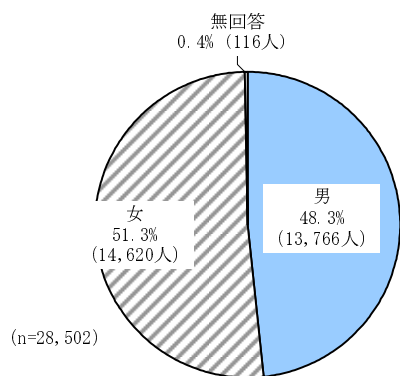


#### ④ 居住している住居の種類別

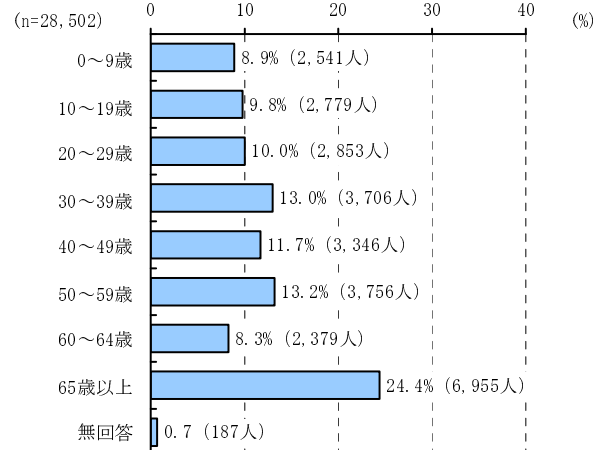


#### (2) 世帯構成員の属性

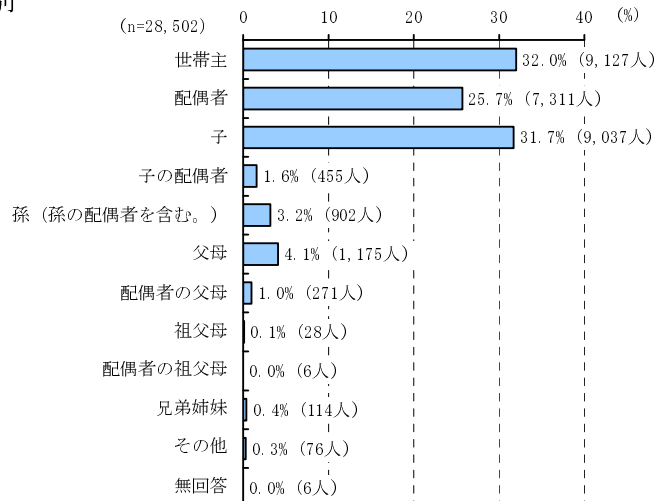
##### ① 性別



##### ② 年齢別

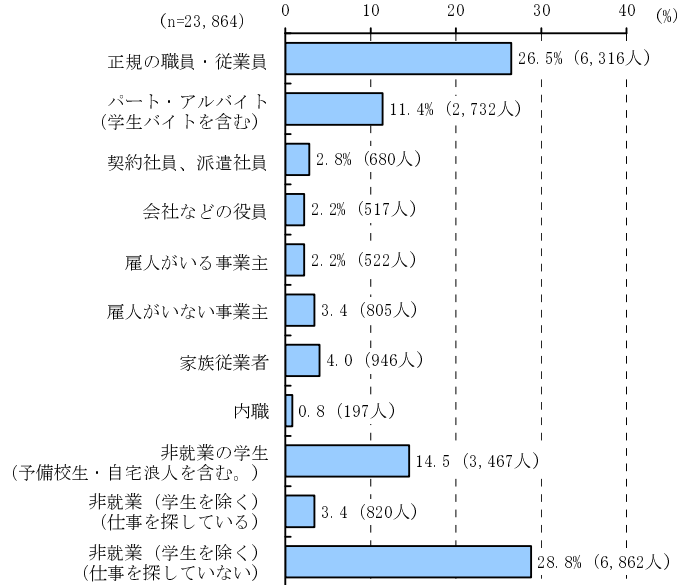


##### ③ 続柄別





#### ④ 就業等形態別



#### ⑤ 就業者の就業先産業別

